

昭和工業株式会社

環境経営レポート

2024年度

活動期間

自： 2024年04月01日

至： 2025年03月31日



上空から見た当社

(GoogleMapより)

作成日

2025年07月25日

目	次
1.組織の概要	・・・ 2
2.対象の範囲（認証・登録範囲）	・・・ 3
3.環境方針	・・・ 4
4.環境目標 及び 実績	・・・ 5～6
5.環境活動計画の取組結果とその評価	・・・ 7～8
6.次年度の取組内容	・・・ 9～10
7.環境関連法規等の遵守状況	・・・ 11
8.代表者による全体評価と見直しの結果	・・・ 12
9.取組事例紹介	・・・ 13
10.環境関連データ	・・・ 14～16

1. 組織の概要

(1) 事業者名・及び代表社名

昭和工業株式会社
代表取締役 野口 雅数

(2) 所在地

埼玉県草加市住吉 2丁目1番6号

(3) 環境管理責任者氏名・連絡先

代表取締役 野口 雅数
TEL 048-922-3394 FAX 048-929-1488

(環境管理担当者)

総務部総務課 杉山 孝之
TEL 048-922-3331 FAX 048-922-0946

(4) 事業内容

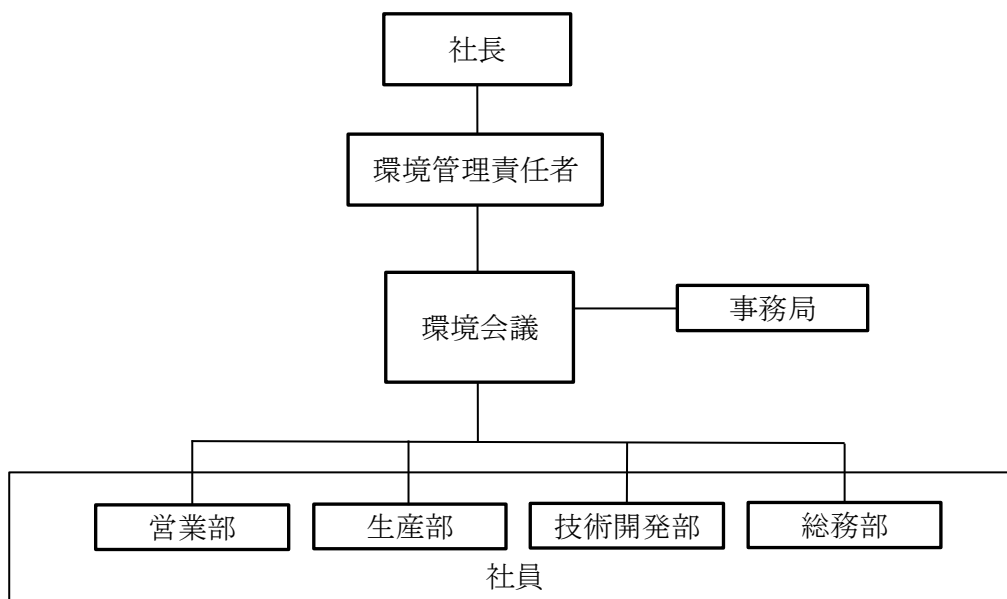
産業用各種繊維基材への高分子加工・設計・開発・販売、研磨基布コーティング樹脂加工、タイヤ基布特殊樹脂加工、音響機器基布コーティング樹脂加工、その他産業用資材樹脂加工

(5) 事業の規模

- ・ 資本金 2,000万円
- ・ 設立 昭和9年（1934年）11月03日
- ・ 年間加工数量 509万m（2024年04月01日～2025年03月31日）
- ・ 従業員数 28名（2025年03月31日現在）
- ・ 敷地面積 9,091m²
- ・ 作業場面積 5,977m²

2. 対象範囲（認証・登録範囲）

- 全社・全事業活動が対象
- エコアクション21（以下“EA21”）推進組織図



○ 役割・担当

担 当	役 割
社長	代表者として、環境経営全般に関する責任と権限を持つ。 環境方針を策定する。 経営における課題とチャンスを整理し明確化する。 EA21の遂行に必要な資源（人、物、資金）を用意する。 EA21の取組状況を評価し、見直し、必要な指示を行う。 環境管理責任者、環境会議メンバー等を任命する。 環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	EA21のガイドラインに沿った、環境マネジメントシステムを構築し、実施し、監視する。 環境マネジメントシステムの実施状況を、適宜、社長へ報告をする。
環境会議 (役員及び管理職)	上半期、下半期に開催し、実施状況の確認及び対応を検討する。 各担当部門の環境教育を行う。 各担当部門の環境活動計画の実行。 環境活動レポートの作成。
EA21事務局 (環境管理担当者)	環境マネジメントシステムの運営全般。 環境関連の全体的な把握のためのデータの取り纏めを行う。 社外からの環境に対する苦情等の受付と対応を行う。 環境関連法規についての遵守把握と対応を行う。
社員	環境方針の理解と認識。 決定事項の遵守と、積極的な環境保全活動への参加。

3. 環境方針

（企業理念）

昭和工業は、技術開発と品質向上に日々努め、お客様の求める「より良い製品」「優れた技術」そして「誠意あるサービス」を提供することを企業理念としております。また、企業の社会的責任を果たし皆様の信頼を得て、より健全な企業の発展を目指してまいります。

昭和工業は製造業としての事業活動のあらゆる面において環境に優しい活動を推進いたします。

（環境基本方針）

当社は産業用基布のコーティング製品の開発・製造・販売に於いて、環境保全が重要な課題であることを認識し、製造環境の改善、環境負荷の逡減に努め、環境マネジメントシステム（エコアクション21略称EA21）に基づいて環境保全活動に取り組めます。

1. 当社は環境関係法規制を認識し、同意した其の他要求事項を遵守します。
2. 環境マネジメントシステムおよび環境目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善向上につとめます。
3. 当社は重点項目として次のことを、事業活動をとおして環境負荷の逡減に努めます。
 - (1) 地球温暖化防止のため、二酸化炭素の排出量を削減します。
 - (2) 省資源を推進し廃棄物の排出量を削減します。
 - (3) 水資源の有効利用のため、排水の削減に努めます。
 - (4) 化学物質を適正に管理し可能な限り削減に努めます。
 - (5) 事務用品等のグリーン購入を推進します。
 - (6) 不良品の削減および不良品発生率の逡減をします。
4. 社員研修を進め、社員の環境保全への意識の向上に努めます。

2014年09月01日制定

2016年05月27日確認

代表取締役社長
野口 雅数

4. 環境目標 及び 実績

○ 中長期計画 及び 実績

項目	年度 /単位	2023年度実績	2024年度目標	2024年度	2025年度目標	2026年度目標
		前期	前期比99%	実績	前期比99%	前期比99%
二酸化炭素	kg-CO2	788,253	780,371	863,690	855,053	846,503
電力※	kWh	749,750	742,253	784,491	776,646	768,880
	kWh/km※	150.0	148.5	154.0	152.5	150.9
	kg-CO2/km※	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガス※	Nm3	359,933	356,334	390,810	386,902	383,033
	Nm3/km※	72.0	71.3	76.7	76.0	75.2
	kg-CO2/km※	157.7	156.1	169.6	167.9	166.2
産業廃棄物※ (廃プラ)	kg	63,410	62,776	62,750	62,123	61,501
	kg/km※	12.685	12.558	12.322	12.199	12.077
一般廃棄物※	kg	1,840	1,822	1,750	1,733	1,715
	kg/km※	0.368	0.364	0.344	0.341	0.337
工業用水量	m ³	188,605	186,719	156,895	155,326	153,773
上水量	m ³	485	480	484	479	474
製品及びサービス (不良発生率)	%	0.230%	0.228%	0.100%	0.099%	0.098%

※ 電力、ガス、廃棄物については、生産数量1,000m当たりの数値を指標とする。
2023年度の実績は5,092kmです。

※2 中期目標は、前年を基準に1%削減とする。(前年比99%)

※3 電力の二酸化炭素排出係数は、日本テクノの調整後排出係数0[2023年度]

※4 ガスの二酸化炭素排出係数は、東京ガスの排出係数2.21[2023年度]

※5 化学物質使用量については当社で量をコントロールできないため目標数値を設定せず
適正管理に努めます。

○ 今期計画・実績

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
電力の削減	電力量	kWh/km [※]	150.0	148.5	154.0	×
	CO2量	kg-CO2/km [※]	0.0	0.0	0.0	-

日本テクノの調整後排出係数0[2023年度]

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
ガスの削減	ガス量	Nm3/km [※]	72.0	71.3	76.7	×
	CO2量	kg-CO2/km [※]	157.7	156.1	169.6	×

東京ガスの排出係数2.21[2022年度]

廃棄物の削減

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
産業廃棄物	排出量	kg/km [※]	12.685	12.558	12.322	○
一般廃棄物	排出量	kg/km [※]	0.368	0.364	0.344	○

水使用量の削減

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
工業用水	受水量	m ³	188,605	186,719	156,895	○
上水道	受水量	m ³	485	480	484	×

製品・サービス

項目	指標	単位	基準値	目標値	実績	評価
不良品発生率	NG率	%	0.230%	0.228%	0.100%	○

※ 電力、ガス、廃棄物については、生産数量1,000m当たりの数値を指標とする。

5. 環境活動計画の取組結果とその評価

項 目	評価	内 容
○ 電力の削減		
不必要時の照明消灯の徹底	○	巡回確認
倉庫・トイレ等使用時のみの点灯の徹底	○	巡回確認
室内温度の徹底管理	○	巡回確認
照明機器の清掃 及び 古い機器のLED化	○	巡回確認、LED化の推進
脱臭装置の見直し	○	メンテナンス強化
(総合評価)		
生産量前年比1.8%増に対して、電力4.6%増となり、年間目標は達成できなかった。生産量の増え幅より電力量の増え幅が大きかった。REに対してDIP、研磨のラインの電気使用量が大きい為、各製造工程の増量に違いにより、生産数量より電気使用量が増えたものと考えられる。 LED化は進んでいる。2027年には蛍光灯の製造が終わるので、引き続き進める。		
○ ガスの削減		
ガス機器点火の適正化	○	アイドリングタイムの削減
ボイラー使用時間の適正化	○	速やかな停止行動の注意喚起
機械の移設・集約	○	2号機改造を推進
ボイラー全般の効率化	○	配管の見直し、漏れ配管の迅速な交換
(総合評価)		
生産量前年比1.8%増に対して、ガス8.6%増となり、年間目標は達成できなかった。生産量の増え幅よりガス使用量の増え幅が大きかった。REに対してDIP、研磨のラインのガス使用量が大きい為、各製造工程の増量に違いにより、生産数量よりガス使用量が増えたものと考えられる。ガス設備の老朽化が進んでいる為、配管やバルブのチェックが必要。		
○ 一般廃棄物		
ダンボール、紙管の分別の推進	○	分別し再資源化、2回搬出
コピー機リセットの推奨	○	点検、周知をした
(総合評価)		
一般廃棄物総量で90kg減。昨年度に続き減少傾向にある。段ボールの分別も守られている。昨今の電子化により印刷物や郵送物の減少も廃棄物の減少に寄与しているものと考えられる。		

- 凡例
- . . . 目標達成
 - △ . . . 課題が残っている
 - . . . 実施できなかった

項目	評価	内容
○産業廃棄物		
耳カット幅の削減	○	製品の耳カット幅の維持
包装資材の削減	○	該当なし
(総合評価)		
生産数量は前期比1.8%増加だったが、廃棄物は1.0%の減少と良好な結果となった。引き続き耳カット幅の管理を維持していく。また、生地設計の際には長さ無駄が出ない様に要請をしていく。		

○水の削減		
工業用水取水量の削減	○	バルブを絞り削減
洗浄用ホース先開閉コック装着状況再確認	○	洗浄の際に出しっぱなしにしない様注意
節水表示（上水道トイレ、食堂）	○	掲示による呼びかけ
雨水経路の変更	-	屋根の構造の根本改善が必要
(総合評価)		
以前までは加工中に水を出しっぱなしにしていたりバルブを閉めても水が止まらないところがあったが、こまめに水を止めるように言い続けバルブを増設して水が止まるようにしたことが減少に繋がったと思う。上水道は掃除や洗濯機の使用が増えたことが原因と思われる。		

○化学物質の適正管理		
SafetyDataSheet（SDS）の最新版の取り寄せ	○	維持管理されている
保管場所の周知、徹底、適正保管	○	維持管理されている
危険薬品SDSの掲示	○	安全衛生委員会で確認した
SDSの作成（当社製品）	○	顧客から要請に対応
試験室危険薬品の管理	○	保管庫で適正管理
(総合評価)		
SDSの取り寄せは薬品の廃版による代替薬品の分がメイン。SDS作成も廃版に伴う改訂がメインになった。		

○製品・サービス		
巻ロールの清掃、管理	○	布巻きを実施
修理部品の長期的な確保	○	必要な部品が確保されている
各ライン保全管理メンテナンス箇所見直し	○	メンテナンスの強化
廃棄率の削減	○	加工異常を減らし廃棄率を下げる
(総合評価)		
年度末3月の廃棄m数が残念ながら多いが、全体的には前年度廃棄率0.23%よりも低い0.10%を達成した。 来年度でリバウンドが起きないように、これを継続できるようにしなくてはならない。		

- 凡例
- . . . 目標達成
 - △ . . . 課題が残っている
 - . . . 実施できなかった

6.次年度の取組内容

次年度の取組は、今年度の内容を基本的に踏襲し、実施する。

項 目	内 容
・ 電力の削減	
不必要時の照明消灯の徹底	週1回程度巡回しチェックする
倉庫・トイレ等使用時のみの点灯の徹底	//
室内温度の徹底管理	使用状況をチェック、監視
照明機器の清掃 及び 古い機器のLED化	LED化を進める
脱臭装置の見直し	脱臭装置の設置場所、ダクトの見直し
・ ガスの削減	
ガス機器消火の適正化	速やかな停止行動の注意喚起
ボイラー使用時間の適正化	速やかな停止行動の注意喚起
機械の移設・集約	新工場に機械を移設し集約する
ボイラー全般の効率化	配管の見直し、漏れ配管の迅速な交換
・ 一般廃棄物	
ダンボール、紙管の分別の推進	引き続き分別廃棄の推進
コピー機リセットの推奨	コピーミスの削減
・ 産業廃棄物	
耳カット幅の削減	製品の耳カット幅を狭くする（維持）
包装資材の削減	原反の包装をリユースする
・ 水の削減	
工業用水受水量の削減	バルブを絞り削減
洗浄用ホース先開閉コック装着状況再確認	ホース先端にコック装着状況の確認
節水表示（上水道トイレ、食堂）	掲示で啓蒙
雨水経路の変更	雨水の放出経路を合理化する
・ 化学物質の適正管理	
SafetyDataSheet（SDS）の最新版の取り寄せ	改訂後の最新版の入手
保管場所の周知、徹底、適正保管	保管場所の適正確認、表示のチェック
危険薬品SDSの掲示	作業する場所に使用する薬品のSDSを掲示
SDSの作成（当社製品）	ユーザーからの依頼時に当社の製品のSDSを作成していく
試験室危険薬品の管理	保管庫に適性に管理する

項 目	内 容
・ 製品・サービス	
巻ロールの清掃、管理	巻ロールのガムテープを除去状態の確認
修理部品の長期的な確保	長時間のライン停止を防ぐ
メンテナンスの推進	メンテナンスの強化
廃棄率の削減	加工異常を減らし、廃棄率を下げる

7.環境関連法規等の遵守状況

3月6日の市による臭気検査で基準値25に対して37と基準値オーバー。その他の環境関連法規について違反はありません。また、過去3年間、関係機関等からの指導及び訴訟等はありませんでした。

・当社に適用される主な環境関連法規

法規名等	評価	対象
廃棄物処理法	○	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理廃棄物
騒音規制法	○	コンプレッサー
振動規制法	○	コンプレッサー
悪臭防止法	×	煙突排気
下水道法、市下水道条例	○	下水道
資源有効利用促進法	○	廃パソコン
フロン排出抑制法	○	業務用エアコン等
PRTR法	○	フェノール、ホルムアルデヒド
毒劇物取締法	○	アンモニア

8.代表者による全体評価と見直しの結果

1.環境基本方針

本年度も昨年同様環境取り組みは重要課題として取り組み、ガスの効率化、電力の効率化、水の効率化、廃棄物の減少、廃水の管理、排気の管理等に取り組んできました。

加工数の偏った増加で電力、ガスの使用量は向上させられなかった。不良品発生による廃棄は引き続き低い水準で推移しているが、更なる意識向上を図っていきたい。

2.環境目標及び実績

電力・ガスは、効率が一番良いスピーカーエッジ部門が不調であったため、より非効率性が目立ってしまった。

収益が上がらないなか、設備更新もできず改善が図れなかったことは、残念である。

引き続き無駄のない加工を目指し、日々努力を重ねているところであります。

3.実施体制

人員不足の中、各チーム長の指示の下、生産効率の向上を目指している。

夏場の気温上昇に伴う対策は、極力スポットクーラーなどの増強を行ってきた。

今後は進化してきた冷却ベストなども現場の意見を取り入れながら活用していきたい。

4.その他の環境経営システムの各要素

鋼材など中国からの安売り攻勢や日本の自動車輸出が伸び悩む中、設備更新も難しい現状です。

今後は蓄電池の技術革新を待って、太陽光発電なども取り入れていきたい。

また、水路の見直しにより効率的な工場用水の利用も図っていきたい。

9.取組事例紹介

○ 蛍光灯をLEDへの転換



11号機液場



生産管理室



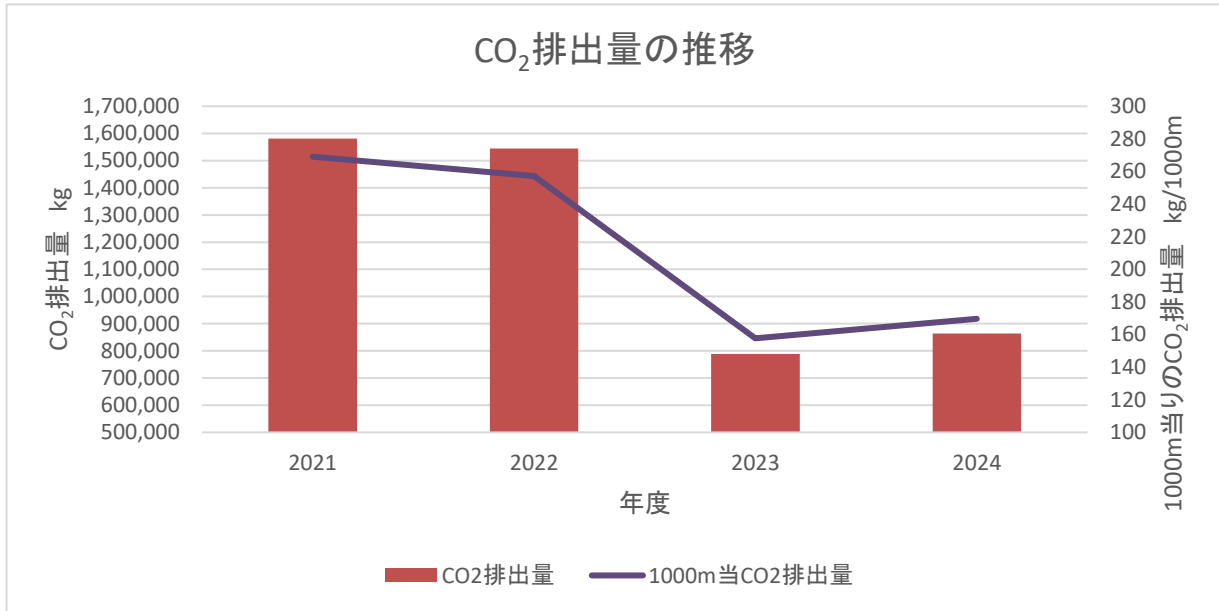
○ 工場機械の集約化（6年目）

収益の状況に合わせて、新工場の機械の調整などできる範囲での取り組みを実施した。

10.環境関係データ

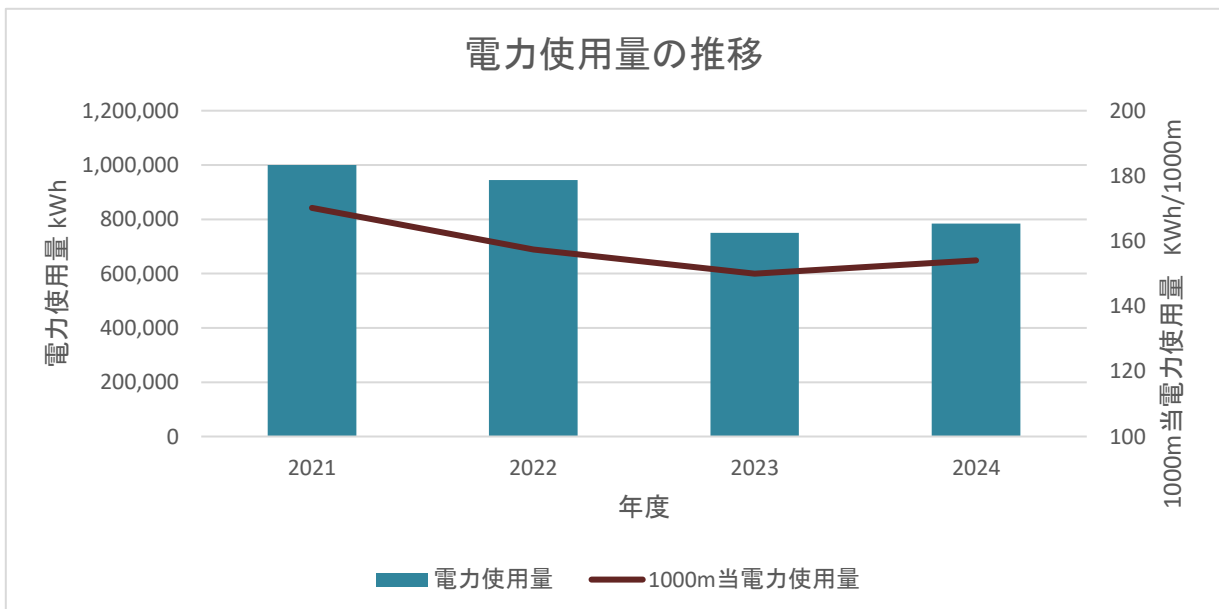
○ CO₂排出量の推移

年度	2021	2022	2023	2024	
生産数量	5,878,103	6,003,355	4,998,892	5,092,647	(m)
CO ₂ 排出量	1,581,585	1,544,207	788,253	863,690	(kg-CO ₂)
1000m当CO ₂ 排出量	269.1	257.2	157.7	169.6	(kg/1000m)



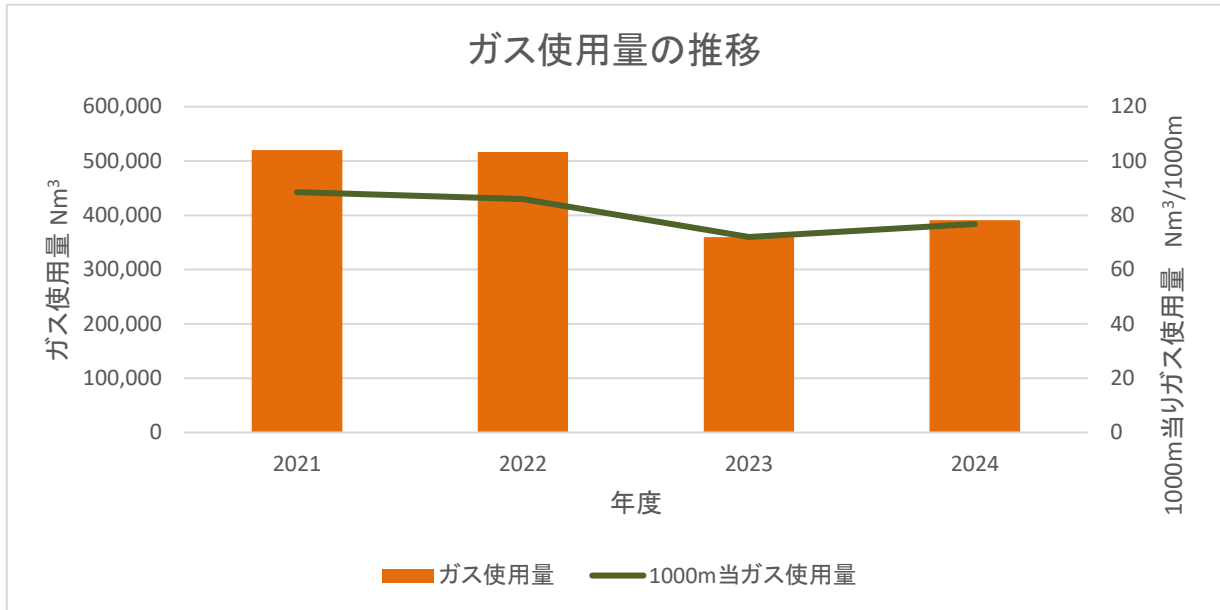
○ 電力使用量の推移

年度	2021	2022	2023	2024	
電力使用量	1,000,290	944,785	749,750	784,491	(kWh)
1000m当電力使用量	170.2	157.4	150.0	154.0	(kWh/1000m)



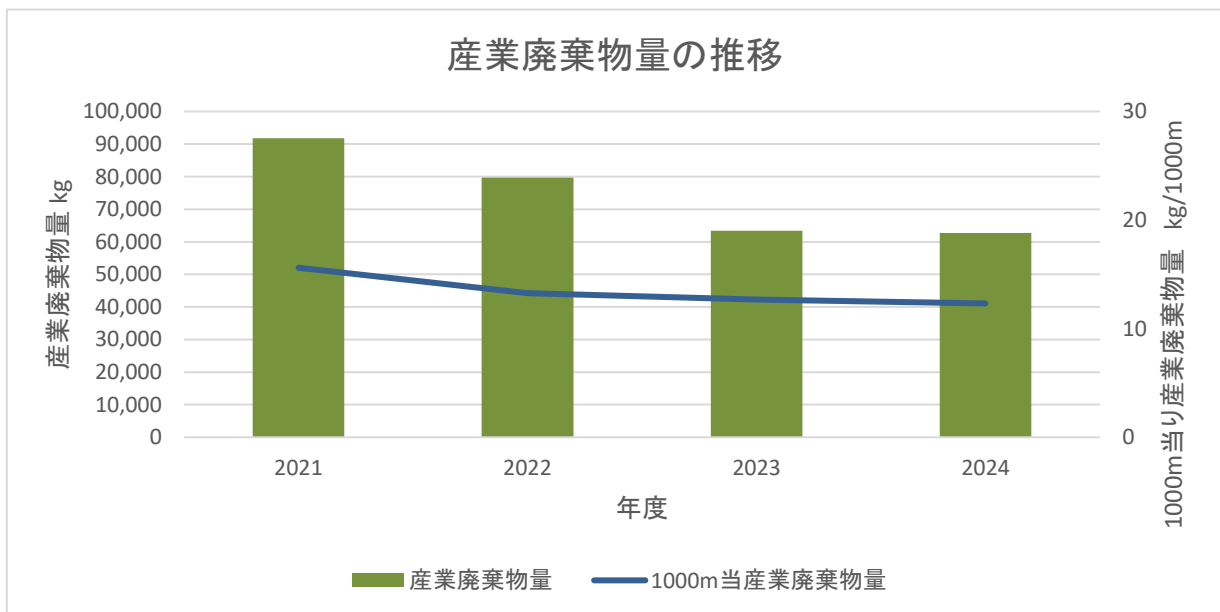
○ ガス使用量

年度	2021	2022	2023	2024	
ガス使用量	520,300	516,280	359,933	390,810	(Nm ³)
1000m当ガス使用量	88.5	86.0	72.0	76.7	(Nm ³ /1000m)



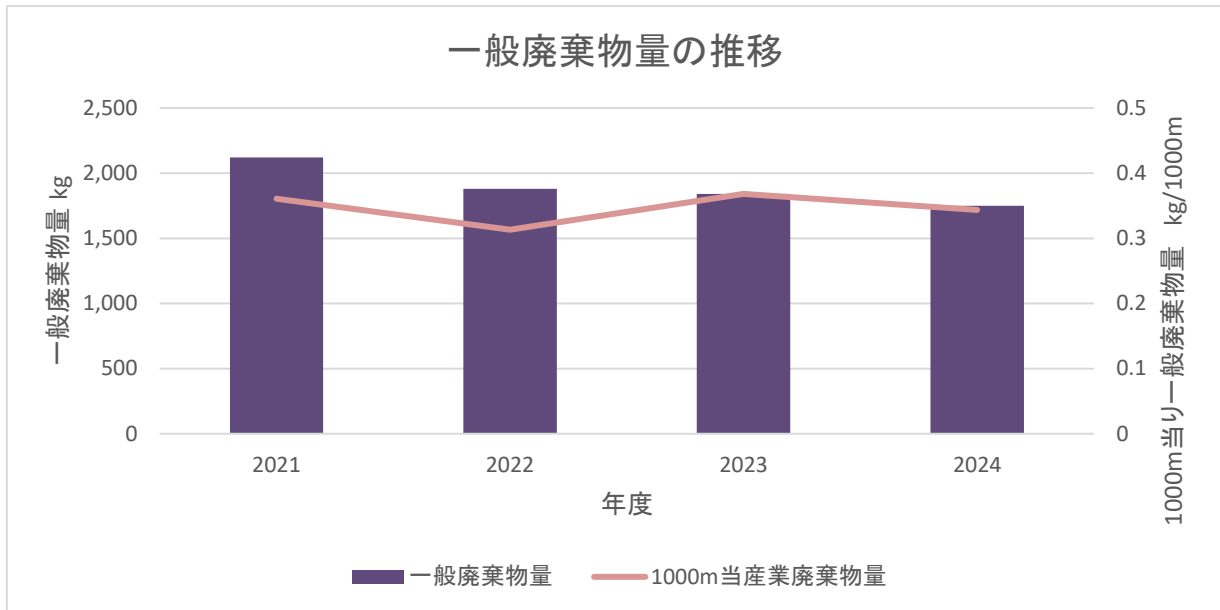
○ 産業廃棄物（廃プラ）量

年度	2021	2022	2023	2024	
産業廃棄物量	91,750	79,670	63,410	62,750	(kg)
1000m当産業廃棄物量	15.609	13.271	12.685	12.322	(kg/1000m)



○ 一般廃棄物量

年度	2021	2022	2023	2024	
一般廃棄物量	2,121	1,880	1,840	1,750	(kg)
1000m当産業廃棄物量	0.361	0.313	0.368	0.344	(kg/1000m)



○ 工業用水／上水受水量

年度	2021	2022	2023	2024	
工業用水受水量	134,051	169,248	188,605	156,895	(m ³)
上水受水量	505	497	485	484	(m ³)

